

総合的教育計画

群馬県理容専門学校

教科課目	関係法規・制度
------	---------

指導目標	<p>(1) 理容師の業務に関する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、正しい知識を習得しておかなければならない必要性を理解させ、あわせて、公衆衛生を担う理容師の社会的責務、職業倫理について、自覚を促す。</p> <p>(2) 理容の業務に関する規定内容を正確に理解させるとともに、衛生法規が、理容業を行う場合の指針として有する意義を把握させる。</p>
------	--

指導内容	1年前期	<p>ア 衛生行政 (ア) 法律、政治、行政の役割、機能 (イ) 行政の仕組み、国の行政と地方の行政 (ウ) 衛生行政の目標、衛生行政の種類、衛生行政の意義 (オ) 衛生行政機関、保健所の活動及び組織</p> <p>イ 理容師法 (ア) 理容師法の沿革、目的と意義 (イ) 理容に関する用語が法律でどのように定義されているかを理解させること。 (ウ) 理容師の意義、免許制度、免許手続、免許の欠格要件、免許の登録 (エ) 理容師試験の意義、試験の内容及び受験の手続 (オ) 理容師養成施設の課程、教科課目</p>
------	------	---

指導内容	1年後期	<p>(カ) 理容師の業務上の遵守事項、理容師の衛生措置、公衆衛生における理容師の職責 (キ) 理容所の開設届、施設の検査確認、理容所の衛生措置 (ク) 理容師の免許取消、業務停止 (ケ) 理容所の閉鎖命令 (コ) 理容師法の罰則</p> <p>ウ その他の関係法規 理容に関係のある法律 生活衛生関係営業の運営の適正化及び振興に関する法律及び消費者保護関連法規の意義</p>
------	------	--

教科課目	衛生管理
------	------

指導目標	<p>(1) 公衆衛生の意義と本質とを明らかにすることによって、理容師が公衆衛生の維持と増進について重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解させることが必要であること。特に、生活衛生の意義と目的について、理容師の業務と関連付けながら具体的に理解させる。</p> <p>(2) 理容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視して、理容における衛生措置の重要性について理解させること。特に、理容器具などの消毒法は、理容業務の衛生性を担保する上で最も重要な技術であるので、その意義と原理について十分に理解させるとともに、その適正な実施方法を身に付けさせる。</p>
------	--

指導内容	1 年前期	<p>ア 公衆衛生</p> <p>(ア) 公衆衛生の意義、公衆衛生と理容業、公衆衛生の発展向上</p> <p>(イ) 公衆衛生の発展の歴史、公衆衛生の思想および発展</p> <p>(ウ) 予防医学と環境衛生、健康で文化的な生活の基盤</p> <p>(エ) 保健所の機能、組織、業務、保健所と理容業</p> <p>イ 感染症</p> <p>(ア) 理容の業務と感染症、その予防対策</p> <p>ウ 衛生管理技術</p> <p>(ア) 理容所における衛生管理、消毒の意義と目的</p> <p>(イ) 消毒方法の種類、原理、特徴</p>
------	----------	--

指導内容	1 年後期	<p>エ 環境衛生</p> <p>(ア) 環境衛生の意義</p> <p>(イ) 理容所における採光、照明、換気、床などの構造設備、衣服の衛生</p> <p>(ウ) 理容所における廃棄物処理、環境保全対策</p> <p>イ 感染症</p> <p>(イ) 理容所における衛生措置、消毒の意義、感染症対策</p> <p>ウ 衛生管理技術</p> <p>(ウ) 対象物の材質、構造などに応じた適切な消毒方法の選択と適正な実施方法</p> <p>(エ) 理容所における消毒方法についての正しい操作方法</p>
------	----------	---

教科課目	保 健
------	-----

指導目標	<p>(1) 理容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識の習得を目的とする。</p> <p>(2) 理容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させる。</p>
------	---

指導内容	1 年前期	<p>ア 人体の構造及び機能</p> <p>(ア) 人体の構造と機能に関する基本的事項</p> <p>(イ) 骨格、筋肉、各種臓器の種類、構造、機能</p> <p>(ウ) 人体の調整機能(神経、内分泌、免疫)のしくみ</p> <p>(エ) 人体の構造、機能と疾病との関連</p> <p>イ 皮膚及び皮膚付属器官の構造及び機能</p> <p>(ア) 皮膚、皮膚付属器官(毛髪、爪、脂せん、汗せんなど)の構造</p> <p>(イ) 皮膚の生理的作用</p> <p>(ウ) 毛髪、爪の生理的意義と特性</p>
------	----------	---

指導内容	1 年後期	<p>ウ 皮膚及び皮膚付属器官の保健衛生</p> <p>(ア) 皮膚、皮膚付属器官の状態および影響を与える因子</p> <p>(イ) 皮膚、皮膚付属器官を健康に保つための理容の施術</p> <p>エ 皮膚及び皮膚付属器官の疾患</p> <p>(ア) 主な皮膚、皮膚付属器官の疾患の種類、原因、症状、予防・治療法</p> <p>(イ) 化粧品によるかぶれ、その発生機序と予防法、理容の業務における注意点</p>
------	----------	--

教科課目	香粧品化学
------	-------

指導目標	<p>(1) 理容の業務を安全かつ効果的に行うためには、正確な科学的知識と合理的思考に裏付けられた香粧品の適正な取り扱いが不可欠であることを理解させる。</p> <p>(2) 香粧品の合理的な取扱方法に習熟させる。あわせて、香粧品による危害を防止するための使用上の注意を学ばせる。</p> <p>(3) 香粧品は、理容技術を行う上で欠くことのできないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものであることから、その化学的な性質を理解させるとともに、これを正しく使用するためには正確な知識と適正な技術とを身に付けることが重要であることを認識させる。</p>
------	--

指導内容	1年前期	<p>(ア) 化学の基本原則、理容技術の実例</p> <p>(イ) 化学薬品の取扱い、溶液の調製法</p>
------	------	---

指導内容	1年後期	<p>(ウ) 石けん、洗剤、化粧水、ヘアシャンプー、ヘアリンス、整髪料、養毛剤、染毛剤、除毛剤、パーマ液など理容において使用される主な香粧品の種類、使用目的、成分、作用原理、使用上の注意</p>
------	------	---

教科課目	文化論
------	-----

指導目標	<p>(1) 理容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識させ、この使命の達成のために必要な美的感覚を身に付け、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力とを養わせる。</p> <p>(2) 理容の業務を全うするためには、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを自覚させる。</p>
------	--

指導内容	1年前期	<p>ア 理容文化史</p> <p>(ア) 我が国における理容ファッションの変遷</p> <p>(イ) 海外における理容ファッションの変遷</p> <p>(ウ) 流行を追う心理、流行が社会に及ぼす影響</p> <p>イ 理容デザイン</p> <p>(ア) 造形の原理、造形と心理、理容における造形の意義と応用</p> <p>(イ) 色彩の原理、色彩と心理、理容における色彩の意義と応用</p>
------	------	--

指導内容	1年後期	<p>ウ 服飾</p> <p>(ア) 服飾の原理、理容における服飾の意義</p> <p>(イ) 服飾の歴史のあらまし、衣服の種類、衣服に関するエチケット</p>
------	------	--

教科課目	運営管理
------	------

指導目標	<p>(1) 経営管理の基本的事項を学習することによって、理容業における科学的な経営管理手法の重要性を認識させ、理容所の経営に役立たせる。</p> <p>(2) 理容業において、適切な接客態度がいかに重要であることを自覚させるとともに、消費者対応の基本を学ばせ、実践する能力を身に付けさせる。</p>
------	--

指導内容	1 年 前期	<p>ア 経営戦略 経営戦略の基本的理論、理容業における実例</p> <p>イ 経営管理 (ア) 経営管理の基本的理論、理容業における実例 (イ) 理容所の経営に必要な経理事務</p>
------	--------------	--

指導内容	1 年 後期	<p>ウ 労務管理 労務管理の基本的理論、理容業における実例</p> <p>エ 接客法 (ア) エチケットの必要性、社会生活の各側面におけるエチケット (イ) 接客の意義と技術、具体的事例 (ウ) 苦情処理、消費者対応の基本的事項、理容業における実例</p>
------	--------------	---

教科課目	英会話
------	-----

指導目標	サロンでの接客をはじめ、将来海外でも活躍できるよう基本的な力を身に付けさせる。
------	---

指導内容	1年前期	基礎的会話
------	------	-------

指導内容	1年後期	語学の学習を通じて外国の文化、生活習慣などに関する理解
------	------	-----------------------------

教科課目	社会福祉
------	------

指導目標	高齢社会での理容のニーズ、奉仕作業を通じて理容師の業務と関連付けながら具体的に理解させる。
------	---

指導内容	1 年前期	<p>ア 社会福祉の意義と目的、奉仕活動</p> <p>イ 理容師の職能を活かしての社会福祉活動</p>
------	----------	--

指導内容	1 年後期	ウ 我が国の社会保障制度のあらまし、年金、医療保険などの重要性
------	----------	---------------------------------

教科課目	理容技術理論	担当教員	松田昇、福島健夫 都丸淳子、磯山典子
履修学年・学期	1・2年学年 通年	授業方法	講義
指導評価	学期末の試験で評価する。		
使用教科書等	「理容技術理論1」、「理容技術理論2」(日本理容美容教育センター)		
指導目標	<p>(1) 理容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる。</p> <p>(2) 理容器具の正しい取扱いの方法と理容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる。</p> <p>(3) 優れた理容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調する。</p>		

☆授業計画

指導内容	1 年前期	<p>ア 器具の取扱い</p> <p>(ア) 人間の手と器具の働き、理容器具の種類と特徴</p> <p>(イ) 種類、各部の名称、使用目的、形態と機能</p> <p>(ウ) 基本的操作法、選定法、手入れ法</p> <p>イ 基礎技術</p> <p>(ア) 理容技術の意義、技術を行う場合の心得</p> <p>(イ) 人体各部の名称</p> <p>(ウ) 技術者の位置と姿勢、身体の機能、基礎知識</p>
指導内容	1 年後期	<p>ウ 頭部技術</p> <p>目的、種類、特徴、技術上の注意</p> <p>エ 顔面技術</p> <p>目的、種類、特徴、技術上の注意</p>
指導内容	2 年前期	<p>オ 特殊技術</p> <p>特殊技術の目的、種類、特徴、技術上の注意点</p>

教科課目	理容実習	担当教員	松田昇、福島健夫 都丸淳子、磯山典子
履修学年・学期	1・2年学年 通年	授業方法	講義
指導目標	(1)理容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせる技術を習得させる。 (2)理容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせる。		
指導評価	学期末の試験で評価する。		
使用教科書等	「理容技術理論1」、「理容技術理論2」(日本理容美容教育センター)		

☆授業計画

指導内容	1 年前期	ア 器具の取扱実習 (ア) 理容器具の操作方法、消毒方法、手入れ方法 (イ) 用途に適した理容器具の選択方法、理解、実践 イ 基礎技術実習 (ア) 理容技術を行う場合の位置、姿勢、基本動作 (イ) 施設の清掃、消毒、衛生管理
指導内容	1 年後期	ウ 頭部技術実習 基本的な頭部技術 エ 顔面技術実習 基本的な顔面処理技術
指導内容	2 年前期	オ 特殊技術実習 理容の特殊技術
指導内容	2 年後期	カ 総合実習 頭部、顔面、特殊技術を組み合わせる調和のとれた理容技術の完成・総合的技術

教科科目	理容専門教育	担当教員	都丸淳子、磯山典子 青柳文明、大和淳人、田村哲也
履修学年・学期	1・2年学年 通年	授業方法	実習
指導評価	学期末の試験で評価する。		
使用教科書等	「理容技術理論1」、「理容技術理論2」、「理容実習1」、「理容実習2」(日本理容美容教育センター)		
指導目標	<p>(1)技術の歴史、理論、現状のほか、目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせる。特に、効果と安全性に関する科学的基礎について十分に認識させる。理容技術の目的が科学的事実と合理的思考に裏付けられた技術の重要性を認識させる。</p> <p>(2)個々の客の要望に応じた理容技術を確実に提供できるよう総合的な技術を身に付けさせる。</p>		

☆授業計画

指導内容	1 年後期	基礎から総合へ
指導内容	2 年前期	ア 頭部技術総合実習 イ 顔面技術総合実習 ウ 特殊技術総合実習
指導内容	2 年後期	エ 総合実習